

東葛支部会報

第8号

千葉工業同窓会東葛支部

2003年9月1日



▲ 本土寺のあじさい(松戸市)

第5回 東葛支部定期総会開催

東葛支部第5回定期総会を、去る6月14日(土) 13時より、市川市の「八幡会館」で開催しました。

当日は梅雨に入ったばかりで、大変蒸し暑い日でしたが、来賓の方々、および会員を含め総勢56名の皆様にお集まりいただきました。

議題は「平成14年度会務報告」・「平成14年度決算報告」・「平成15年度会務計画(案)」・「平成15年度予算(案)」・「平成15年度役員改選の件」の5議題でしたが、いずれも異議なく承認され、新しい役員が揃いました。役員任期は2年間です。皆様、今後のご活躍の程よろしくお願ひ致します。

次いで、安藤同窓会々長・青木学校長・段木同窓会顧問の方々からご祝辞をいただいた後、八幡会館のエントランスで記念撮影を行いました。

撮影は、八幡会館スタッフの美人にお願いしたので、大変よく撮れていると思いますが、いかがでしょうか。

懇親会は、カラオケのほか、オカリナ演奏やドジョウ掬いも飛び出し、あっという間の2時間半でした。

最後は3校舎の校歌を歌ってお開きとなりました。

■ 第1号議案 平成14年度 会務報告

項番	年 月 日	実 施 内 容	実 施 場 所
1	14. 4. 7	千葉工業第17回同窓祭千葉工業高校	千葉工業高校
2	13	外房支部定期総会	エストーレホテル(東金市)
3	27	本部広報編集委員会	新千葉平成館(千葉市)
4	5. 11	千葉工業同窓会常任幹事会	千葉工業高校
5	12	京葉支部定期総会	割烹旅館玉川(船橋市)
6	14	千葉市3支部・外房支部共催ゴルフ大会	房総CC・大上コース(睦沢町)
7	19	千葉工業同窓会常任幹事会	千葉工業高校
8	26	市原支部定期総会	サンプラザ市原(市原市)
9	30	千工会 理事会・評議委員会	千葉工業高校
10	6. 2	北総支部定期総会	成田Uシティホテル(成田市)
11	9	支部第1回幹事会	市川勤労福祉センター(市川市)
12	16	千葉市東支部定期総会	新千葉平成館(千葉市)
13	22	千葉市西支部主催麻雀大会	麻雀太郎(千葉市)
14	7. 7	千葉市中支部定期総会	ポートプラザ千葉(千葉市)
15	21	故景山先生を偲ぶ会	ポートプラザ千葉(千葉市)
16	27	支部第4回定例総会	八幡会館(市川市)
17	8. 2	紙トンボ作製指導者養成会	武道館/運動公園(松戸市)
18	16	支部有志ゴルフ大会	藤ヶ谷CC(沼南町)
19	25	支部長連絡会議	新千葉平成館(千葉市)
20	26	支部第2回幹事会	高柳コミュニティセンター(沼南町)
21	9. 7	市川・浦安地区会創立準備会	ふく栄(市川市)
22	10. 6	ハゼ釣り&バーベキュー大会	江戸川スーパー堤防(市川市)
23	9	本部主催第4回親善ゴルフ大会	房総CC・大上コース(睦沢町)
24	16	支部第1回常任幹事会	若菜寿司(流山市)
25	19	支部長連絡会議	新千葉平成館(千葉市)
26	26	本部主催麻雀大会	麻雀太郎(千葉市)
27	31	支部有志ゴルフ大会	西茨城CC(岩間町)
28	11. 3	千葉工業高校ミニ集会	千葉工業高校
29	22・23	竹トンボ普及会	柏の葉県民プラザ(柏市)
30	23	市川・浦安地区懇談会	重よし(市川市)
31	12. 3	学校長 教育功労・産業教育功労賞受賞祝賀会	ホテル サンガーデン(千葉市)
32	5	本部第3回ハイキング同好会	三国山(箱根町)
33	7	支部第3回幹事会兼忘年会	吉春(柏市)
34	15. 1. 25	千葉市西支部定期総会	ポートプラザ千葉(千葉市)
35	2. 23	市川・浦安地区旅行会	熱川ハイツ(東伊豆町)
36	25	本部第2回囲碁同好会	西千葉囲碁センター(千葉市)
37	3. 2	支部第4回幹事会	高柳コミュニティセンター(沼南町)
38	4	千葉工業卒業証書授与式	千葉工業高校
39	9	南総支部定期総会	木更津市民会館(木更津市)
40	17	同窓祭実行委員会	千葉工業高校

■ 第2号議案 平成14年度 決算報告

● 収入の部

費用	予 算	決 算	差 額 (予-決)	内 訳
前年度繰越金	▲5,021	▲5,021	0	
年 会 費	183,000	174,000	▲9,000	58名×3,000
本部助成金	139,000	139,000	0	一律：99,000 特別：40,000
寄 付 金	3,000	4,000	1,000	
総 会 費	250,000	220,000	▲30,000	本部・各支部参加費・東葛支 部総会費・懇親会費(20名)
雑 収 入	5,021	17,680	12,659	忘年会・幹事会・懇親会 残金
レクリエーション調査費	10,000	10,000	0	本部より
合 計	585,000	559,659	▲25,341	

● 支出の部

費用	予 算	決 算	差 額 (予-決)	内 訳
総 会 費	250,000	252,537	2,537	資料・案内状：15,425 懇 親 会：237,112
会報発行費	120,000	118,650	▲1,350	5号 会報印刷代 6号
名簿発行費	5,000	0	▲5,000	作成せず
会 議 費	10,000	2,939	▲7,061	幹事会4回 会場費・飲料代
事務通信費	30,000	19,515	▲10,485	会報送付・振込料・ 事務用品・葉書
渉 外 費	90,000	95,000	5,000	他支部定期総会・ 校長祝賀会
本部返済費	50,000	50,000	0	毎年度50,000返済 (完済)
雑 費	10,000	6,284	▲3,716	定例総会記念写真代・他
行 事 費	10,000	3,700	▲6,300	ハゼ釣& バーベキュー大会
予 備 費	10,000	0	10,000	創立5周年 パーティ準備金
合 計	585,000	548,625	▲36,375	

会計監査報告

平成14年度の会計処理について、各帳簿と証拠書類とを照合監査の結果、いずれも適正に処理されており、決算報告の通り相違ないことを認めます。

平成15年4月27日

会計監査 宇賀野政次 (印)

会計監査 竹内 昭夫 (印)

■ 第3号議案 平成15年度 会務計画

- | | |
|----------------------|--|
| 1. 平成15年度
定期総会の開催 | (1) 開催日時 平成15年6月14日(土) 13:00~
(2) 開催場所 市川市 八幡会館 市川市八幡4-2-1 |
| 2. 常任幹事会の開催 | ●年2回以上開催 |
| 3. 幹事会の開催 | ●年3回以上開催 |
| 4. 会報の発行 | ●年2回 第8号 平成15年9月
第9号 平成16年3月 |
| 5. 会員名簿の発行 | ●平成14年度版を15年9月に発行 |
| 6. 地区懇談会の実施 | ●地区ごと又は一部合同して地区懇談会を開催し、会員相互の親睦と人間関係が図れるよう企画する |
| 7. 渉外活動の展開 | ●会員の増加と組織の充実を図ると共に、本部への協力、他支部との協力を図る
① 第17回同窓会
② 他支部定期総会への参加
③ 「本部レクリエーション委員会」開催行事への積極的参加 |
| 8. 会務行事の企画 | ●支部の行事並びに研修会、レクリエーション等を企画する
① 会員の親睦旅行、研修会等を企画し会員相互の親睦を深める
② レクリエーション(ハイキング・バーベキュー・ゴルフ、トレッキング等)を企画し、会員相互の体力の維持向上に努める
③ 本部(レクリエーション委員会)、各支部との連携を深め、同好会への積極的な参加を促進すると共に育成に協力する |

■ 第4号議案 平成15年度予算

● 収入の部

費 用	金 額	内 訳
前年度繰越金	11,034	
年 会 費	180,000	60名(予定)×3,000
本部助成金	108,000	一律 90,000 会員数割当 18,000
寄 付 金	5,000	
総 会 費 (懇親会)	240,000	本部・各支部(24名)東葛支 部(24名)計48名出席予定
雑 収 入	8,966	
合 計	553,000	

● 支出の部

費 用	金 額	内 訳
総 会 費	240,000	懇親会費含む
会報発行費	120,000	7号、8号会報印刷代
名簿発行費	5,000	創設5周年新規名簿作成
会 議 費	5,000	幹事会会場使用料他
事務通信費	20,000	会報送付代、事務用品、切手他
渉 外 費	105,000	他支部総会出席他
雑 費	10,000	記念写真代
行 事 費	20,000	ハゼ釣&バーベキュー大会 (ガス台・ガスボンベ代等)
予 備 費	28,000	創設5周年パーティー準備金
合 計	553,000	

■ 第5号議案 平成15年度役員改選の件

顧問	永 峯 清 秀 (旧職)	再
1. 支部長	立 崎 作 次 (26C)	再
2. ①副支部長	高 橋 健 一 (29C)	再
②副支部長	住 田 敏 和 (31E)	再
③副支部長 (経理部長)	吉 田 勝 彦 (32E)	再
④副支部長	田 口 昭 (25E)	新
3. 事務局長	木 間 英 一 (33C)	新
4. 地区長 (市川・浦安)	芝 田 康 雄 (28E)	再
5. ①常任幹事	高 木 昇 (36E)	新
②常任幹事	伊 橋 潤 一 (27E)	再
③常任幹事	松 本 十 九 三 (30M)	再
④常任幹事	鎌 形 武 久 (33C)	再
⑤常任幹事	坂 卷 実 (34M)	再
⑥常任幹事	滝 口 貞 一 (40M)	再
⑦常任幹事 (市川・浦安地区長)	土 井 啓 太 郎 (42M)	再
6. ①幹 事	前 原 陸 雄 (19E)	再
②幹 事	中 村 軍 治 (32M)	再
③幹 事	志 賀 薫 (32M)	再
④幹 事	渡 辺 秀 男 (33C)	再
⑤幹 事	櫻 井 一 三 (33M)	新
⑥幹 事	寺 本 恒 雄 (33C)	新
7. ①会計監査	宇 賀 野 政 次 (25E)	再
②会計監査	竹 内 昭 夫 (20C)	再
8. 退任者 幹 事	山 崎 良 雄 (40E)	

(順不同)

昭和十年代の中等教育と千葉工業学校の創立



25E 田 口 昭

郷土雑誌「房総と房総人」(796号)を読んでいたら、昭和十年代の県下中等教育に関する記事がありました。その中に、我等が母校千葉工業学校の創立についての文章がありました。

内容は、短いものでしたが設置の理由などを知ることができて、母校への愛着も深くなるものがあります。

また、中学校、高等女学校、実業学校、中等学校などの用語の使い分けについても理解しました。

なお、文章は雑誌に書かれているものから実業学校の記事を重点的に抜粋したのですが文章はそのまま転用しました。なお、雑誌からの転用については、房総社社主滝沢氏のご好意(了承)によるものです。

では、本文をどうぞお読み下さい。

1. 中等教育の動向

前段の高等女学校、実科高等女学校、農学校、商業学校、市立中学校等の記事は省略して、我等が母校、千葉工業学校の記事から転記することにします。

実業学校に工業学校ができたのが、昭和十年代の特色の一つである。

千葉市立工業学校は、昭和11年3月に市議会で可決され、昭和12年4月から応用化学科で出発した。

応用化学科の設置の理由は、当時千葉県の工業が醸造・澱粉・酒造など食品製造工業中心であったことと、設置に財政負担が少ないことがあげられていた。

昭和14年3月に、市立千葉工業学校の県立移管が決定したが、この時新しく電気科、機械科が設置された。

昭和14年4月から野田農学校に応用化学科が新設され、校名も野田農工学校と改められた。

全国的にも県立工業学校をもたない県は少なく、千葉県は工業教育の面では遅れた県であった。

2. 中等学校令の施行と戦時下の教育

昭和18年1月に中等学校令が出され、同年4月から施行された。

中学校・高等女学校・実業学校は、中等学校として一本化してとらえられた。そして中等教育の目的

に「皇国民の錬成」がうたわれ、教育内容も修練等戦時対応できる時間が重視されている。しかし昭和18年から20年にかけては、戦争が最も激しく戦われた時期であり、生徒は勤労作業にかりたてられ、昭和19年から工場への通年動員も一般化した。特に実業教育の面で、商工業統制が進むなかで、商業教育不要論が起り、昭和16年の県議会でも討論されている。

昭和18年10月22日の「教育ニ関スル戦時非常措置方策」で、商業学校整理の方針がうちだされ、工業学校、農学校への転換をせまられた。

昭和19年4月から県立銚子商業学校は銚子工業学校(造船科50、機械科100)、市立千葉商業学校は千葉航空工業学校(航空機械科200)と工業学校に転換した。

※昭和19年4月に、千葉工業学校には電気通信科が設置されたが、戦後電気科に統合された…田口補足。

戦時下の技術者養成のためこの時期工業学校が新設されている。

昭和16年7月に千葉県機械工養成所が市川市に開設された。募集人員は50名で、旋盤工、仕上工、鑄工、木工、図工科があり、修業年限1年で、急速に機械工の養成を図るために県が設立したものである。この施設を用いて、市川市立市川工業学校(夜間)が昭和18年4月に開校された。同19年4月から第一本科(昼間)、第二本科(夜間)の二科がおかれている。

京成電鉄が昭和18年4月に、私立京成工業学校(市川市、昭和23年3月廃止)をつくり、ここに千葉県の工業学校は4校を数えた。なお、昭和18年3月より県立銚子水産学校が開校した。

農学校の場合、食糧増産運動に直接関係させられ、直営農場での増産、一般農家への援農活動への派遣、さらに昭和14年から、夏期の3ヶ月間満州に満州建設勤労奉仕隊、北海道への援農として北海道勤労奉仕隊が派遣されている。

中学校には、学校報国隊が組織され、中学校、高等女学校の場合は、県外の工場への学徒動員も行われ、戦争の進行の中で教育活動は行われ難かった。

3. 青年教育の動向……この項は省略します。

奥久慈：男体山

33C 木間 英一



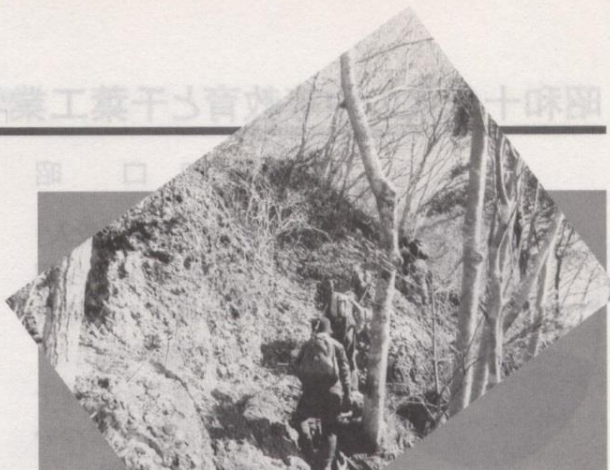
2月13日(木)朝から快晴絶好のハイキング日和、午前7時車にて奥久慈：男体山へ向かって女性3名と出発。

流山ICから常磐高速道を那珂ICで下り国道118号を北上し久慈川沿いを大宮町、山方町を通過して大子町へ入って間もなく西金橋を渡ると即、男体山登山口への大きな標識があり右折、県道322号線を暫く進むと右手に湯沢温泉がある湯沢集落で県道を右に見送り、そのまま直進して北沢集落、古分屋敷と登坂古分屋敷集落の只1軒のお店の手前を左折し少し下った所が駐車場(トイレあり)9時頃到着計画通り。

▼駐車場から見た男体山



9時15分出発駐車場から少し下った所が大円地集落農家の間を男体山への登山道が続く茶畑の中を暫く歩くと男体山への健脚コース(左)と一般コース(右)との分岐行きは左の健脚コースを杉林の中を小尾根に出る、いよいよ急登が始まる危険な場所にはロープ・鎖場の連続にて60分程で尾根にでる、小休止後痩せ尾根(両側が絶壁)を10分程で山頂▲654m、一段高い所に男体権現の祠が在る360度の展望(11時20分～少し早いが昼食とする)。



▲ロープ鎖場の登り



▲男体権現の祠

▼男体山山頂



帰路は一般コースを大円地へと下る暫く尾根通しに鞍部へ次のピークより一気の下りにて大円地に着く東屋の建つ峠で休憩には絶好の場所、大円地集落へは右の谷筋の道を下る両側から被さるように岩壁が覗いている30分程で健脚コース・一般コースとの分岐に到着(13時30分)。後は駐車場まで、帰路は朝素通りした湯沢温泉にて一風呂浴びて帰宅。

足慣らしには手頃な山行きだった。(逢ったのは1組のパーティーのみ)。

定例総会スナップ



東葛ウオッチング

その7「松戸市」(1)

松戸に人が住み始めたのは約3万年前といわれます。縄文時代には台地のすぐ下まで海で、市内には100を超える貝塚が確認されています。

そんな古い時代のことはさておき、昭和の松戸の歴史について少しふれておきましょう。

昭和18年4月、松戸町、高木村、馬橋村が合併して県下7番目の松戸市が誕生しました。

当時の人口は約4万人でしたが、35年に常磐平団地、次いで44年小金原団地が完成し、48年には人口が30万人を突破しました。

昭和46年常磐線の複々線化が完成、地下鉄千代田線が乗り入れ、48年には武蔵野線新松戸～府中本町間が開業して人口も増え続けました。

松戸の名所

本土寺(表紙写真)

「松戸のアジサイ寺」として有名ですが、櫻、菖蒲、紅葉の名所としても知られ、ライトアップされた紅葉の美しさは、拝観料500円(現在は無料)を払ってでも一見する価値があるといわれます。

源氏の名門平賀家の屋敷跡と伝えられていますが、日蓮の弟子「日朗」を道師として招き、領内の地藏堂を移して法華堂として開堂されたのが始まりです。池上本門寺、鎌倉妙本寺と並ぶ日蓮宗の名刹です。

東漸寺(とうぜんじ)

北小金駅をはさんで本土寺と反対側、南へ歩くと東漸寺があります。

江戸初期には関東十八檀林の一つとされた浄土宗の名刹です。

明治の廃仏毀釈で広大な敷地の一部や、開山堂、正定院、浄嘉院、鎮守院などを失いましたが、昭和40年後半に開祖500年記念事業として、熱心な檀家の協力によって本堂、鐘楼、中雀門、総門などが改修され、書院や観音堂が再建されました。

樹齢300年といわれるしだれ櫻や、鶴亀の松、梅、アジサイ、紅葉などが有名で、四季折々の自然に触れることができます。

人口増加は50年代に入ってようやく落ち着きを見せ、現在では45万人余りの人々が松戸に暮らしています。

松戸市の名前を全国に知らしめたのは、何といっても44年に開設された「すぐやる課」でしょう。

当時、人口急増中の松戸市は、市民の多様な要求に行政が追いつかず、問題が山積みとなっていました。当時の松本市長は、「すぐやらなければならないもので」、「すぐやれるものは」、「すぐやります」をモットーに、「すぐやる課」を立ち上げました。

この精神は今も受け継がれていて、現在、課員11名、(内女性1名)の陣容で、市民の様々な要望に応じて感謝されています。



また、4月25日～27日には「御忌まつり」が行われ、お稚児さん達が小金の町を練り歩きます。

矢切の渡し

江戸時代、江戸川の両側に田を持った農民が、関所を通らずに江戸と往来するために設けられた、江戸川唯一の渡しです。

渡しの向こう側は寅さんの柴又。川面を渡る手漕



ぎの音や、ヒバリ、ユリカモメの鳴き声などが「残したい日本の音風景100選」に選ばれています。

乗り場から県道市川松戸線の方角へ20分程歩くと西蓮寺があり、伊藤左千夫の小説「野菊の墓」の一節を刻んだ文学碑があります。隣接する展望台からは、矢切耕地、江戸川の流れ、東京の町並みなどが一望できます。

3月中旬～11月一杯までは毎日。それ以外は、土、日、祝、帝釈天縁日、正月のみ運行。片道100円。無料駐車場15台程度あり。

★次号へ続く…

市川・浦安地区会旅行会

去る2月23日(日)、市川・浦安地区会は熱川温泉への一泊旅行を行いました。

参加人員は6名と少々少な目でしたが、東京駅から東海道線のどん行へ乗ってのんびり…熱海へ着く頃には全員酩酊状態でした。

来宮神社へ寄り、熱海梅林を一周、曇り空でしたが梅が沢山咲いていて人で賑わっていました。伊豆熱川駅で下車、ワニ園の脇を通過して連続する登り坂を歩きますが、目指す「熱川ハイツ」はなかなか見えません。まだ酒が完全に抜けていない人もいて全員バラバラ、のんびり歩いているとやっとなの上に建物が見えてきたのでほっと一息。道が左へ回り込むあたりに左へ登る階段があり、丁度若い女性が登っていたので聞いてみると、こっちは近道とのこと…どうやらハイツの従業員らしく、階段の途中に従業員の寮らしきものがありました。

熱川ハイツは公共の宿で温泉が自慢です。大きな風呂で汗を流したあと、「ほのほのあったかプラン」という冬季限定メニューで宴会後、前夜からの二日酔い状態でダウンのDさんを除いてカラオケBOXで一騒ぎしました。



皆様の趣味や得意とするものをご連絡下さい。

会員の皆様は、色々な趣味をお持ちだと思いますが、比較的ポピュラーと思われるものについて、役員の中から一応の担当者を決めています。会員の皆様のご趣味・得意な分野・

特技などを把握し、色々な行事や交流にお誘いしたいと考えています。趣味や得意な分野が一致した方は、それぞれの担当者までご連絡下さい。

- ゴルフ 吉田 勝彦 〒277-0941 東葛飾郡沼南町高柳1514 TEL.04-7191-0232
- ハイキング 木間 英一 〒270-0002 松戸市平賀125-10 TEL.047-343-0455
- 囲碁・麻雀 高橋 健一 〒270-0157 流山市平和台5-400 TEL.04-7159-9367
- 登山 松本十九三 〒277-0033 柏市増尾7-4-4 TEL.04-7172-1541

今後の予定

●当支部の予定

- 第1回常任幹事会 9月
- ハゼ釣&バーベキュー大会
10月5日(日) 江戸川河川敷
- 第3回幹事会 10月
- 支部トレッキング 11月初旬
- 支部ゴルフ大会 1月

●本部・他支部の予定

- 本部・ゴルフ大会 10月8日(水)
- 本部・囲碁大会 10月21日(水)
- 本部・麻雀大会 10月25日(土)
- 千葉市3支部創立10周年祝賀会
11月2日(日)
- 本部・ハイキング 12月4日(木)

新入会員募集と入会手続きについて

東葛支部では、会員を増やしてどんどん組織を大きくしていきたいと思っています。このため、役員の中に「会員増促進委員会」を作って活動しています。

会員の皆様の仲間で、会員資格のある方がいらっしゃいましたら、ぜひ入会を勧めて下さい。

- 1. 入会資格** 千葉工業学校、千葉工業高校、および同校併設中学校の卒業生、ならびにかつて同校に在勤、在学していた方で支部長が認めた方。
東葛地域に居住している方、または出身が同地域の方、同地域に勤務されている方。
- 2. 会費** 年会費 3,000円
- 3. 入会手続** 役員へ入会申込みされますと郵便振替用紙をお送りしますから、年会費3,000円を振込願います。

支部会報第9号の原稿募集

東葛支部会報第9号の原稿を募集します。

- 1. 発行予定** 平成15年12月
- 2. 原稿締切** 平成14年10月
- 3. 内容** 母校の思い出・恩師の思い出・私の職場・私の仕事・私の趣味・私の特技・旅日記・近況・クラス会模様・エッセイ・呼びかけ・イベント報告 等、何でも結構です。
- 4. 投稿方法** 卒年科・ご氏名を記入の上、郵便・FAX(自動受信)・E-mailのいずれかでご投稿下さい。
- 5. 投稿先** 編集委員長 住田 敏和 〒:279-0026 浦安市弁天三丁目2-68-5
TEL/FAX:047-355-2314 E-mail:info@sunfamily.co.jp

東葛支部会報

第8号

発 行	平成15年9月1日
発 行 者	千葉工業同窓会 東葛支部
発行責任者	支 部 長 立崎作次
事 務 局	事務局長 木間英一
編集責任者	編集委員長 住田敏和